

2025 年 1 月

2024 年度 共同指導科目 授業アンケートでの要望事項への回答
「環境・エネルギー学演習 A／実習 A」

授業アンケート Q10「総合的にみてこの授業は有意義であった」への評価が 5.53(6 点満点、以下同じ)であり、授業目標は達成されたと考えている。

以下、授業アンケートにおいて本授業への要望事項として述べられたことの中から回答・コメントが必要であるものと判断した内容について抜粋して、回答・コメントをおこなう。

「この授業でもっとも有意義な点」として、「この授業を通じて、自分はテーマを決めることから発表までの流れを経て、非常に勉強になった。」「自分の研究について、誰にでもわかりやすく伝える練習となること」「期日までに、とにかく論文を書き、発表することは大変ですが形式的なこともそうですが、身体で覚えることが出来ました。」「発表がどのように書かれているかを理解し、自分の研究内容を進めました。」等のコメントがあり、全体を通じてこの授業が狙いとするところが十分に達せられたと考えている。

「相互研究方式(研究分野の遠い者同士でペアを組む)は有効だった」への評価は 5.71 であった。アンケートの自由記述欄においても、「グループ活動(ペア方式)がとても有意義であった」「グループ議論の場を増やしてほしい」等のコメントがあり、本講義の特徴の一つである学生同士の相互研究方式が有効に機能していると考えている。

一方、講義開始直後でのペア活動では互いの考えを適切に伝え合うことの難しさを指摘するコメントもあり、実施時期ならびに機会については、授業到達目標をさらに効果的に達成するための課題として捉えた。

本講義のもう一つの特徴である複数教員による共同指導についても、「演習 A を通じて、発表とドキュメントを作ることを練習しました。先生たちからの指導意見がとても良いと思います。」「他の皆さんの内容も参考になり、先生、他の皆さんからのご意見も沢山いただきました。」等のコメントがあり、有効に機能していると考えている。

一方、否定的な意見では無く、より講義の質を高めるための意見として「演習 A と演習 B の組み合わせは良いと思うが、ただ、全体的に見ればテーマを決める時間はただ一ヶ月で、ちょっと伸ばしたほうが良いと思う。」「もう少しパネルディスカッションの時間を増やしていただきたいのですが」「リサーチクエスチョンがある程度定まってから書きたかったです。時間的な(精神的な)余裕もありつつ、楽しみをもって先行研究を調べたかった。」等もあり、今後の講義設計・運営において建設的な意見であると捉えた。

以上